米商進路だより

令和５年９月 11 日発行
山形県立米沢商業高等学校
進路指導部（第 15 号）

《　合格への道　》

8月29日（火曜日）　経済　山形新聞

7月末、高校生の県内求人倍率

初の4倍超、4.13倍

山形労働局は28日、来春卒業予定の高校生の県内求人倍率が7月末現在で前年同期を0・45ポイント上回る4・13倍となり、1995年度の統計開始以降、初めて4倍を超えたと発表した。少子化と進学率の上昇で就職希望者が過去最少だった一方、人手不足感を背景に企業の求人意欲の高いことが影響している。

高校生の就職希望者（自営、縁故、公務員希望を除く）は、前年同期比11・9%減の1776人で過去最少。このうち県内を希望するのは12・3%減の1397人だった。就職希望者全体に占める県内希望者の割合は78・7%。

県内企業の求人数は5773人で前年同期と比べて1・5%減少したが、過去5番目に多かった。主な産業別は、本県基幹産業の製造業が2071人（前年同期比0・4%減）、建設業が1277人（同4・1%増）。卸売・小売業は626人（同11・6%増）、医療・福祉は370人（同6・3%減）、宿泊・飲食サービス業は251人（同3・7%増）。

同労働局の担当者は「企業側にとって厳しい状況が続いている。高校生は選択肢が多い状況にあるが、職場見学などでしっかり志望先を見極めることが大切だ」としている。（阿久津誠）

県内の高校生の有効求人倍率が４倍を超えました。高校生が有利であることを証明している数値であり、ここ数年は売り手市場が続いています。高校生の進学率が高くなっていることや生徒数の減少を鑑みれば、今後も売り手市場が続くことは容易に想像がつきます。将来を見据え企業は多くの若い力を求めているのです。１・２年生は、進路選択をする場合に、社会情勢も踏まえて“決断”をする必要があると思います。

さて、３年生の就職希望者は、各企業への応募書類提出が終了し９月 16 日（土）から始まる就職試験に向けて面接練習や作文練習の最終章に入りました。９月４日（月）から３日間は、本校で各企業の採用担当者の皆様から面接練習をしていただきました。本番を想定しての面接は、大変緊張をしたようですが、面接官からのアドバイスについてメモを取る等、真剣なまなざしはとても立派でした。

《　３年生の進路状況　》

３年生の進路概況は下記のとおりです。進学希望者は、９月１日から総合型選抜試験の受付が開始されており、志望理由書等を書いて面接練習に挑んでいます。面接試験では将来の自分を見据え何を学びたいのか明らかにすることが大事であり、もちろん筆記試験があれば合格点に達することも求められます。事前課題（小論文等）が求められている学校もあるので、期日に間に合うように提出しなければなりません。

大学	短大	専門学校	県内就職	県外就職	公務員
１３	５	２８	２４	５	５

山形県の公務員応募状況（高卒程度）が発表されました。税務や裁判事務官等の高卒程度の公務員試験が開始される等、毎週試験の人がいます。まさに、今が最後の追い込みであり、これまでの公務員講習の成果を発揮すべく試験に臨んでほしいと思っています。また、１・２年生で公務員を希望している人は、各自治体の採用人数等を参考にしてください。１０月からは１年生の公務員講習の参加も可能になります。

試験名	試験区分	採用予定人数	申込者数	前年度比
高卒程度	行政	約１０名	８６名	１１７．８％
	警察行政	約　５名	５４名	９８．２％
	総合土木	約１０名	１７名	１００．０％
市町村立学校事務職員		約　５名	２９名	４９．２％

《　１・２年生の皆さんへ　》

８月の第２回基礎力診断テストの結果が届きました。今後、各担任から結果がフィードバックされるものと思われます。「国語」「数学」「英語」の学力を知ることで、日々の学習内容を理解することができていたか知ることができるのです。テストの結果を振り返り、これからの授業および家庭学習等の学習改善につなげてください。第３回目は、１月の冬季休業明けに実施いたします。

期日	曜日	内容
９月１４日	木	３年生進路激励会
９月１６日	土	３年生就職試験解禁日　（全国一斉）
１０月　１日	日	３年生学校推薦型願書受付開始
１０月　４日	水	３年生　第１回進学模擬面接
１０月　５日	木	１年生ワクワクワーク　（仕事体験）
１０月３０日	月	３年生　第２回進学模擬面接

《　よねざわをひらく（オープンファクトリー）　》

９月 15 日（金）から 16 日（土）にかけて「よねざわオープンファクトリー」が開催されます。オープンファクトリーとは、ものづくり企業が生産現場を外部に公開し、来場者にものづくりを体験してもらう取り組みです。「米沢織物」をはじめとする伝統産業は米沢の魅力の一つであり、訪れたひとがご自分の五感を使ってコトやモノを体験し、地元の事業者と交流を深めることが目的です。

⇒本校の生徒が見学（15 日）およびボランティア（１６日）として参加を予定